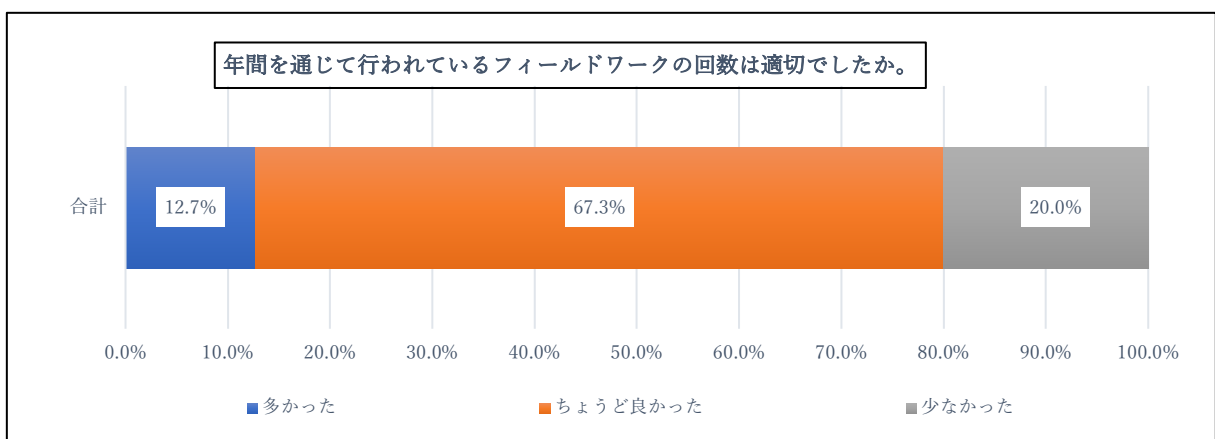
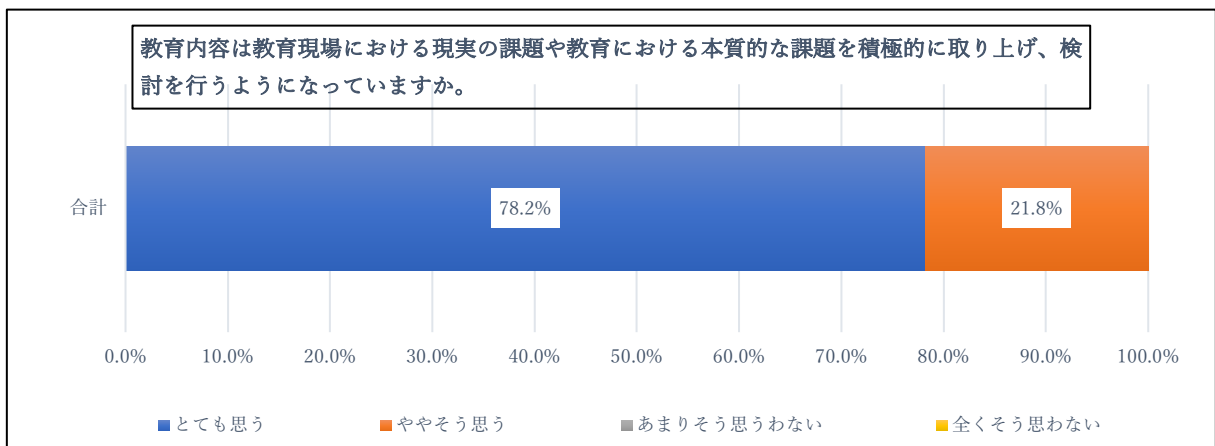
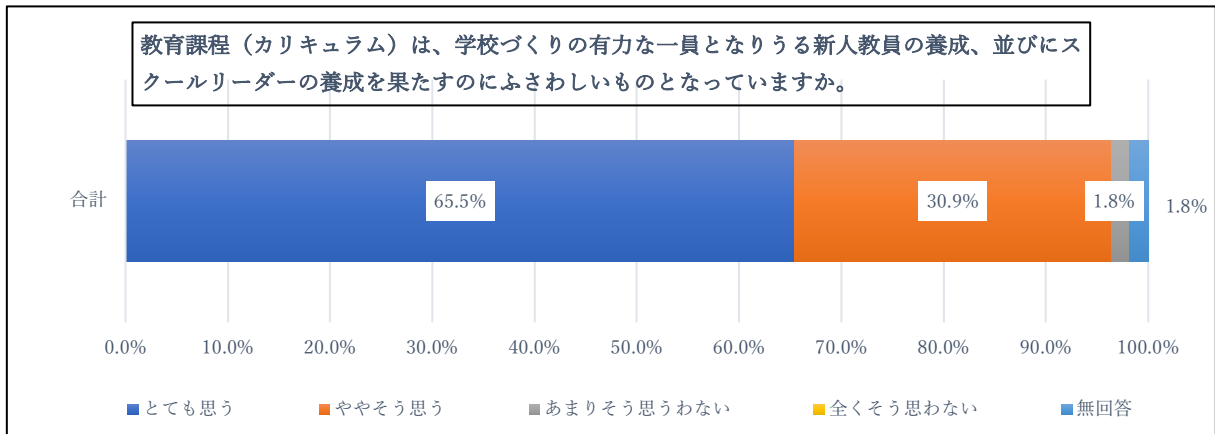
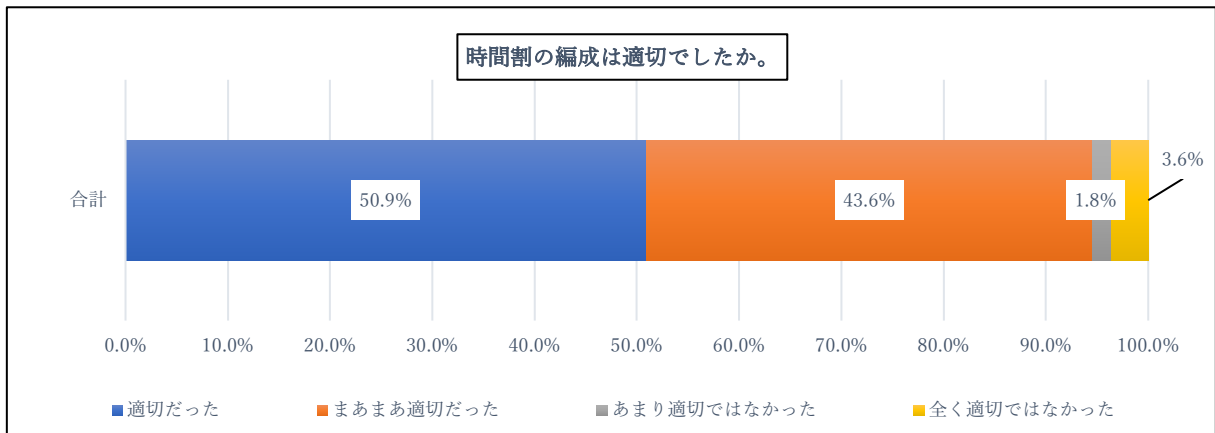


2021 年度「研究科アンケート」

2021 年度の研究科アンケートは 2022 年 3 月に実施され、在學生 30 名、修了生 25 名、計 55 名から回答が得られた。回答結果の傾向及び特徴について、設問区分ごとに以下にまとめる。

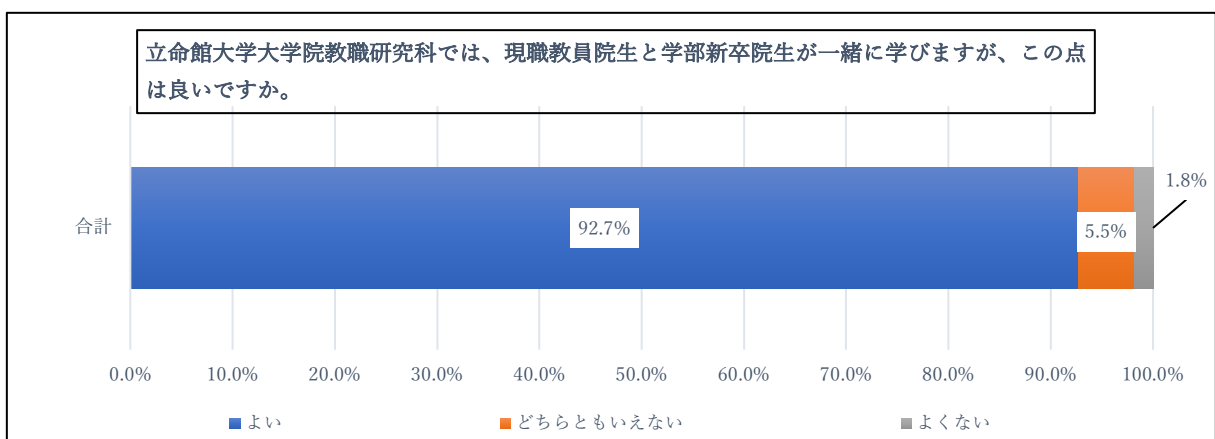
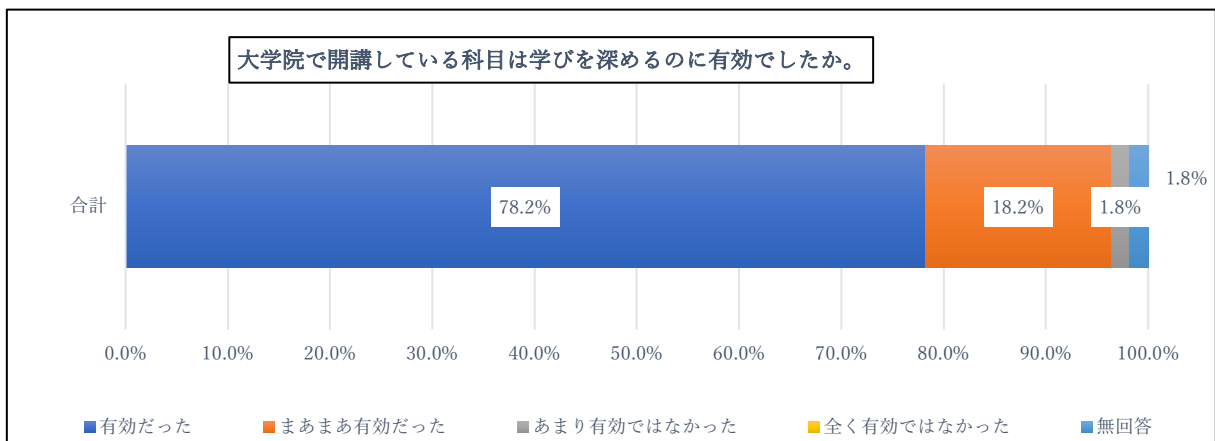
(1) 教育課程について

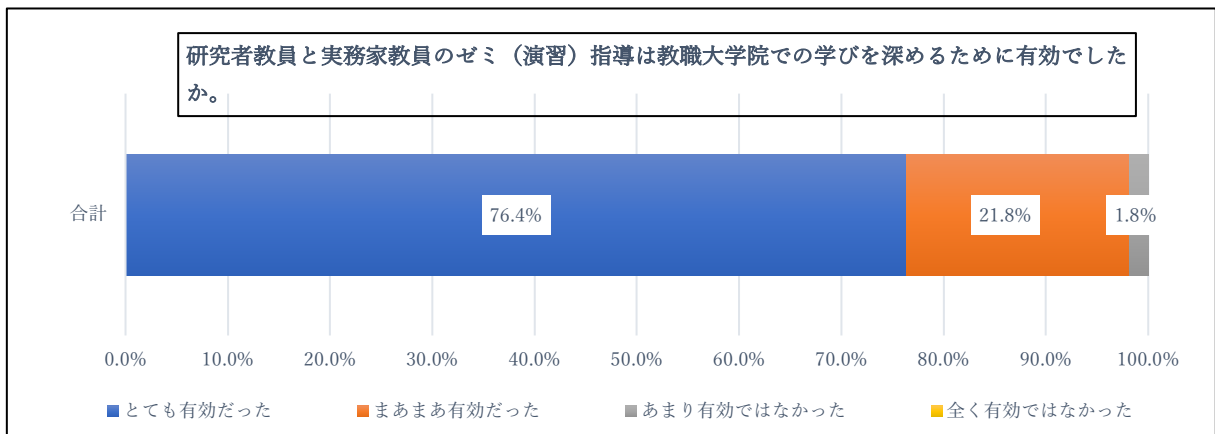
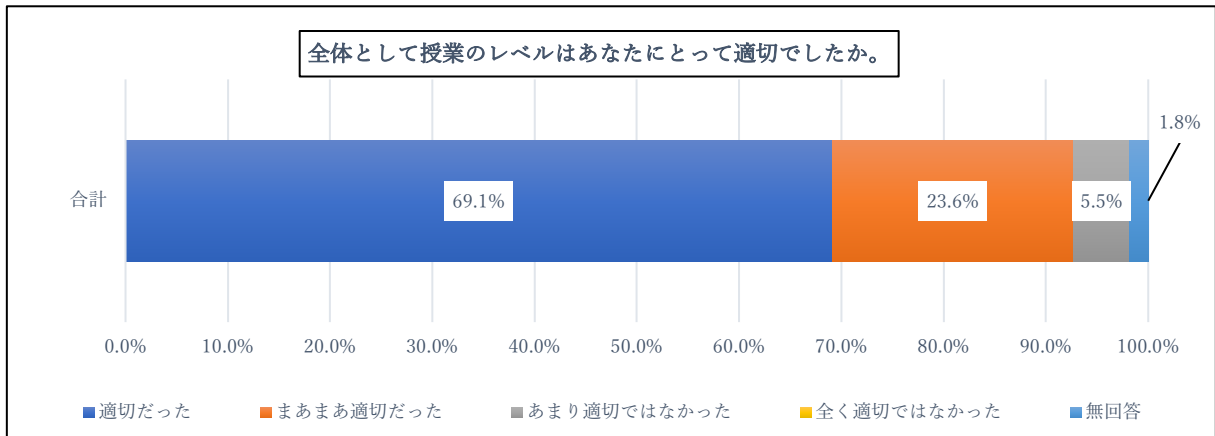




「教育課程について」は、おおむね良好であり、特に「教育内容は教育現場における現実の課題や教育における本質的な課題を積極的に取り上げ、検討を行うようになっていきますか」という設問で「とてもそう思う」との回答が2020年度の52.0%から大幅に増加した。その他の設問も前年度に引き続き改善傾向にあり、継続的なFD活動の成果が表れている。

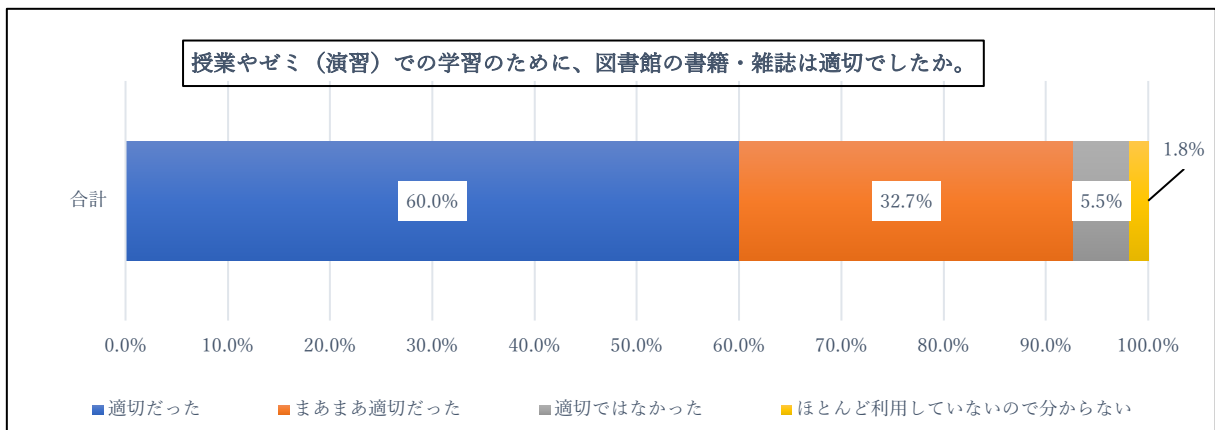
(2) 授業について

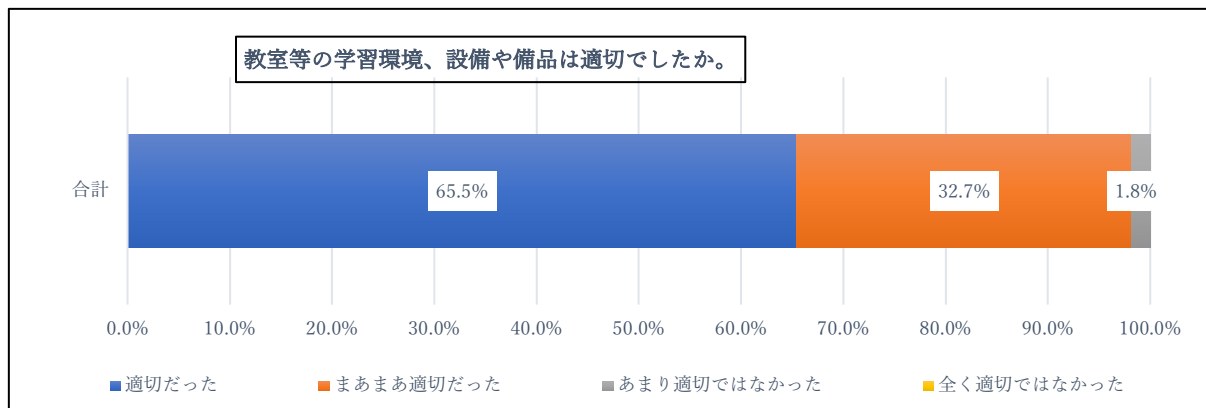
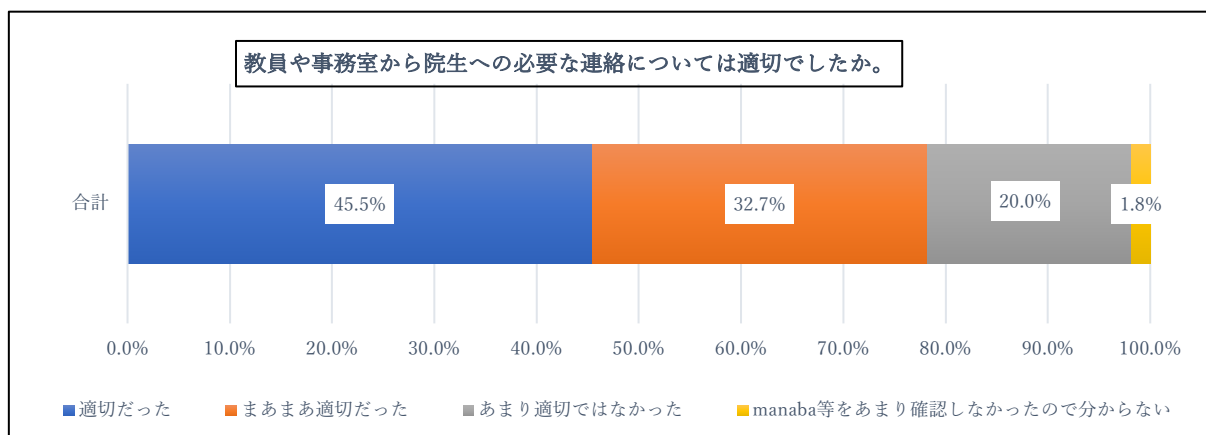
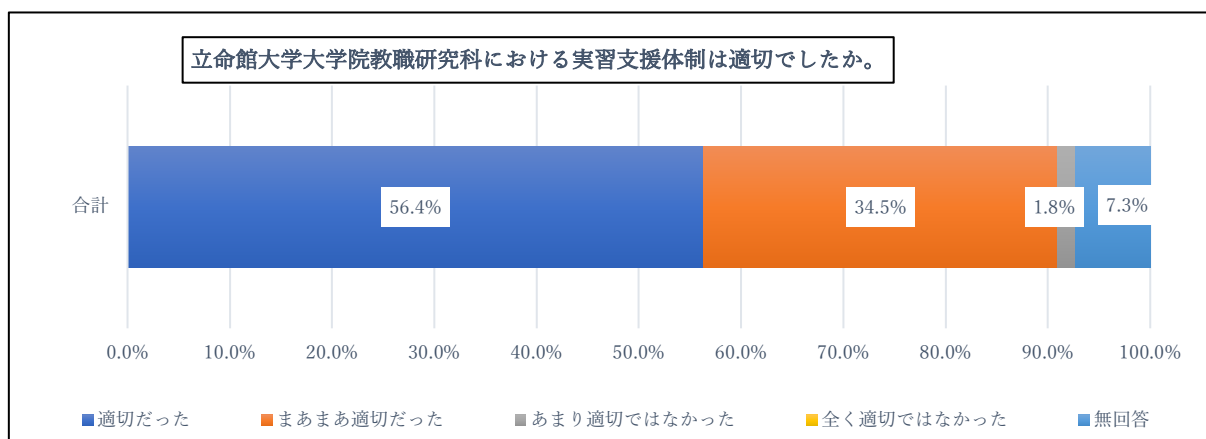
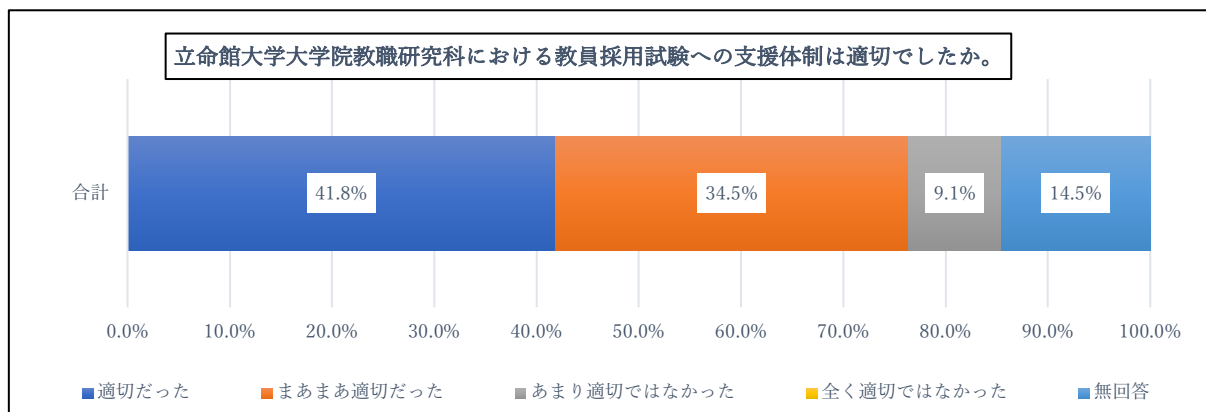




「授業について」の結果は、比較可能な 2018 年度から 2020 年度にかけて大幅に改善され、2021 年度も肯定的回答の割合が高い水準で維持されている。特に「立命館大学大学院教職研究科では、現職教員院生と学部新卒院生と一緒に学びますが、この点は良いですか」という設問で「そう思う」との回答割合が 9 割以上を占めている点が特筆される。

(3) 学生支援について

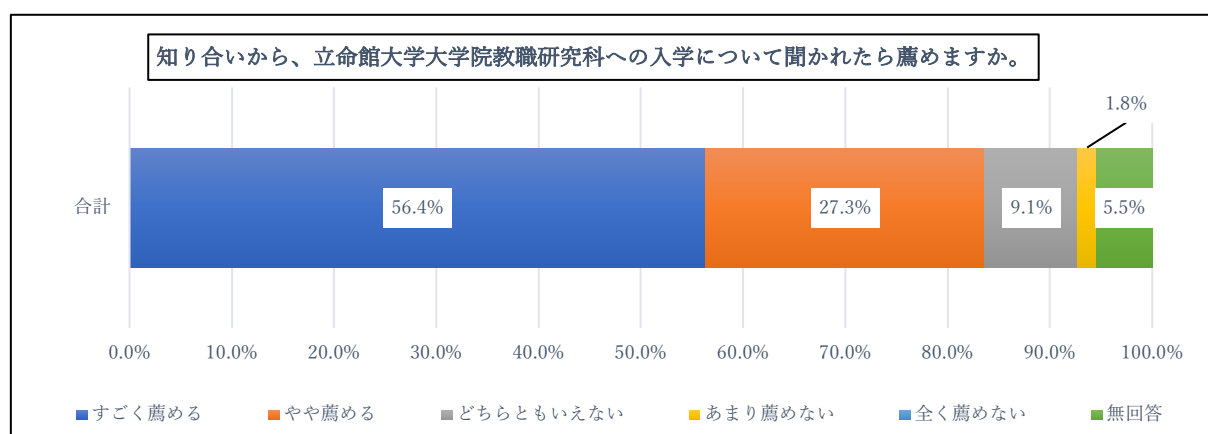
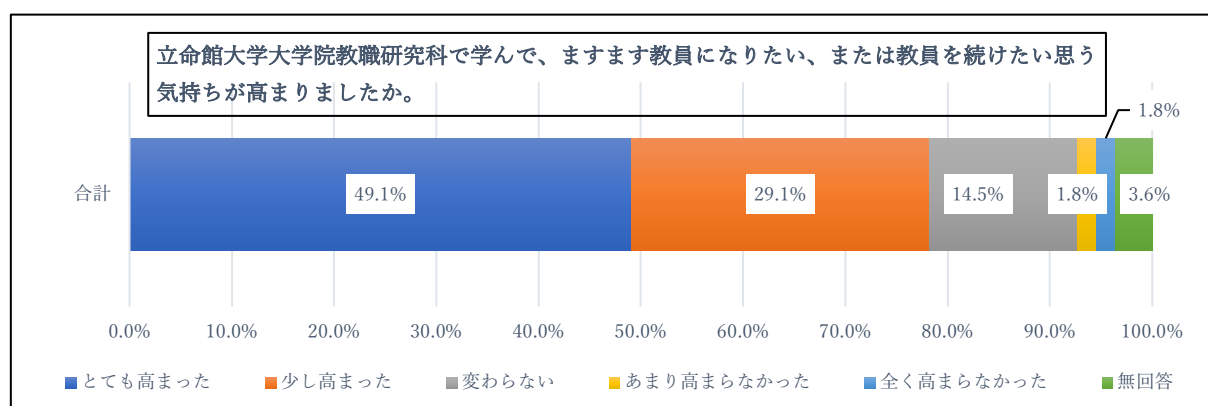
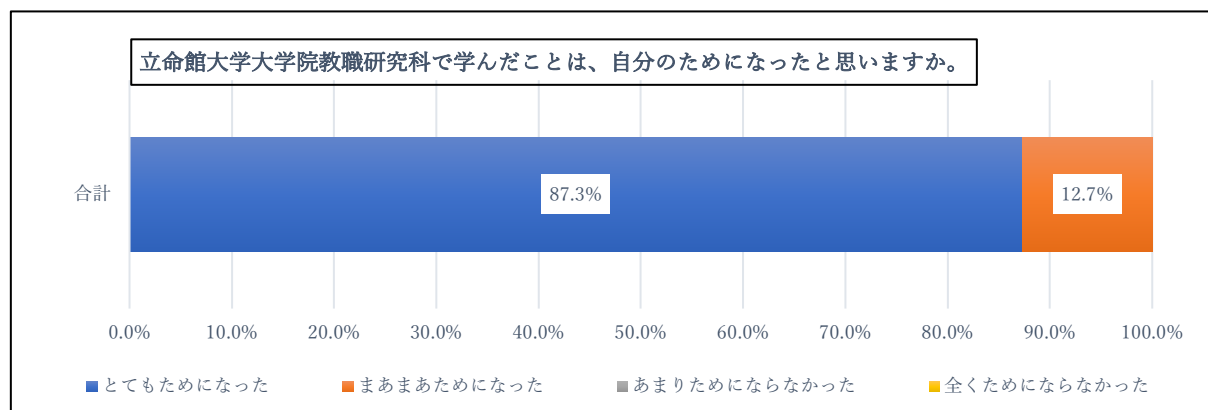




「学生支援について」は、2018年度から2020年度にかけての大幅な改善が認められ、2021年

度もその改善傾向が継続している。特に、実務家教員を中心として専任教員全体で取り組んでいる学校実習（教職専門研修）の支援体制について、連携協力校との信頼関係のもとで改善が図られつつあり、教員採用試験への支援についても個別のニーズに応える体制づくりが進められている。今後、新カリキュラムの実施に向けて、図書館蔵書の充実やハイフレックスなオンライン授業環境の構築等に取り組む予定である。

(4) 全体を通して



2020 年度に引き続き、教職大学院の学びが自分のためになったと多くの院生が回答している。また、入学前から高い水準にあると思われる「教員になりたい」「教員を続けたい」という意欲がさらに向上している院生が多く、教職研究科での学びを通して在学生・修了生のキャリア形成が促進されている状況にあると推察される。